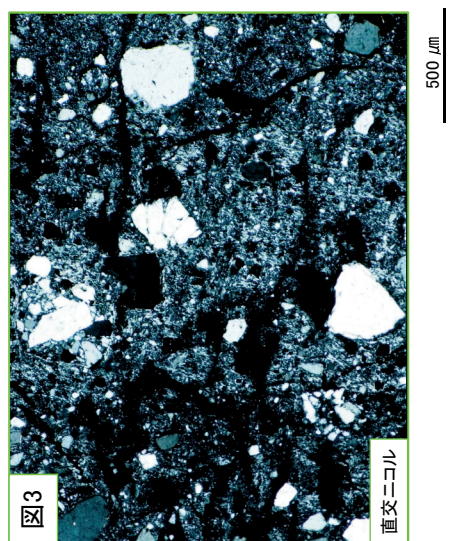
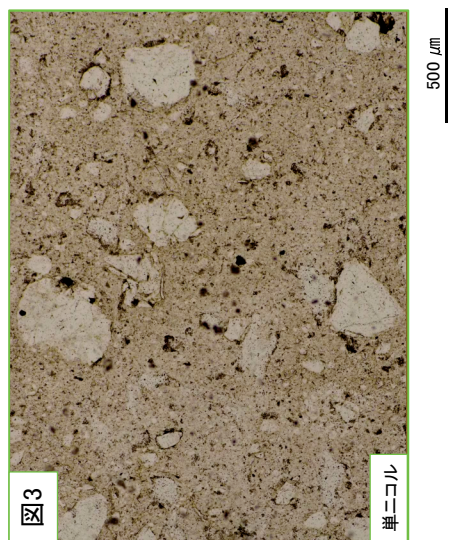
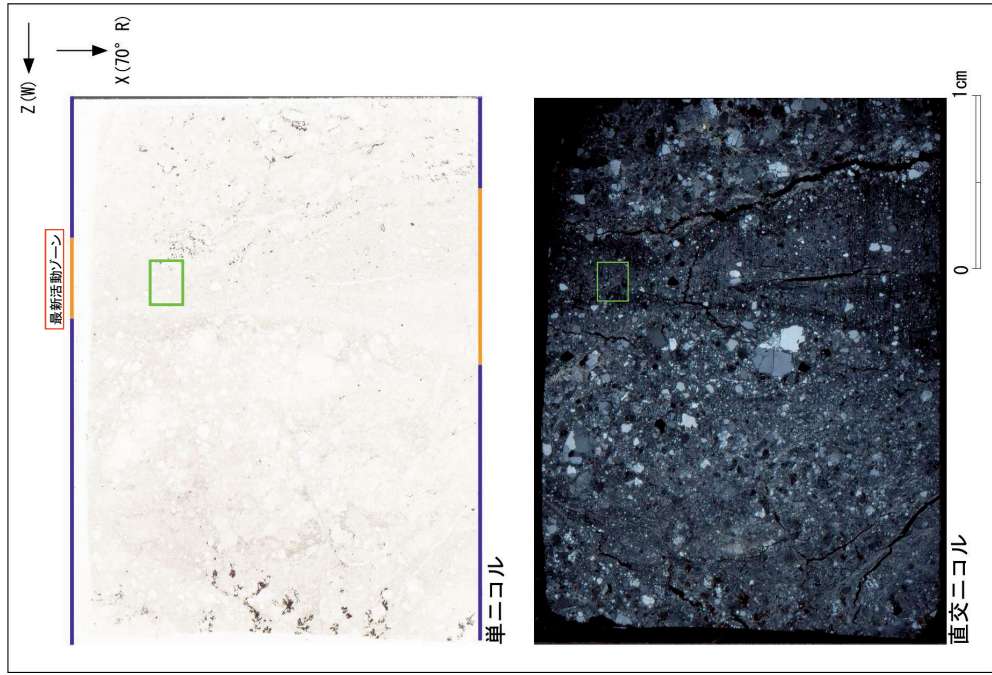


・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 ▶ 岩片は少ない。(図3)
 ▶ 丸みを帯びている岩片が多い。(図3)



凡例
 断層ガウジ
 カタクレーサイト

第7.4.4.283図 (5) 破碎部性状 H27-B-2 深度35.68~35.73m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(3/3))

(肉眼観察結果 深度35.73m)

- 肉眼観察では、粘土状部は軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 α に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 α は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。

- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- 丸みを帯びている岩片が多い。

- 薄片観察では、以下の通りカタクレーサイトの特徴が認められた。
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。

最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトに断層ガウジに取り込まれたものと考えられる。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- 肉眼観察で確認された粘土状部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

断層ガウジ・断層角礫の有無	断層ガウジ・断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・変形構造 *
有	0.2	無

*: 断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

・深度35.92mの「粘土状」と記載の箇所については、やや硬質で、幅が狭いため、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無を把握できなかったが、粘土の幅は膨縮して直線性に乏しい。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。含まれる細粒部は、変質したカタクレーサイト中の粘土脈である。

・深度35.92～35.95mの「礫質砂状～粘土質礫状」と記載の箇所については、やや硬質で、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

ボーリング柱状図

●35.92～35.95m：破砕部
 35.92m：粘土状部 (Hc-1)
 傾斜35°で上下端とも小さく波打って膨縮しながら連続。石英粒、岩片は殆んど含まない(5%以下)。やや硬質。灰オリーブ色を呈する。幅1～5mm。
 35.92～35.95m：礫質砂状～粘土質礫状部 (Hb)
 上端35°、下端45°でいずれも小さく波打って連続。径1～2mmの石英粒、径2～5mmの粘土化岩片を20～30%含む。やや硬質。上位のHc-1の粘土と平行方向に幅1mm以下の灰赤色粘土細脈が数条分布。灰白色を呈する。幅20mm。

コア写真



凡例
 ← → 破砕部範囲※
 ※:写真上は白色で記載

細粒部が網目状に分布する



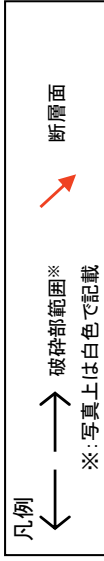
0 5 cm

青粋部拡大
 深度35.92mのやや硬質な粘土

・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

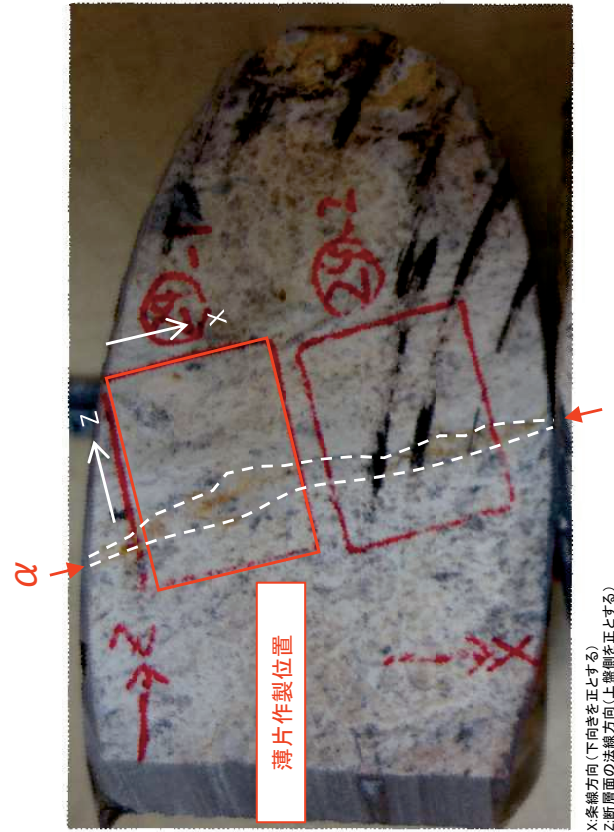
コア写真

※断層面 α は最新活動面

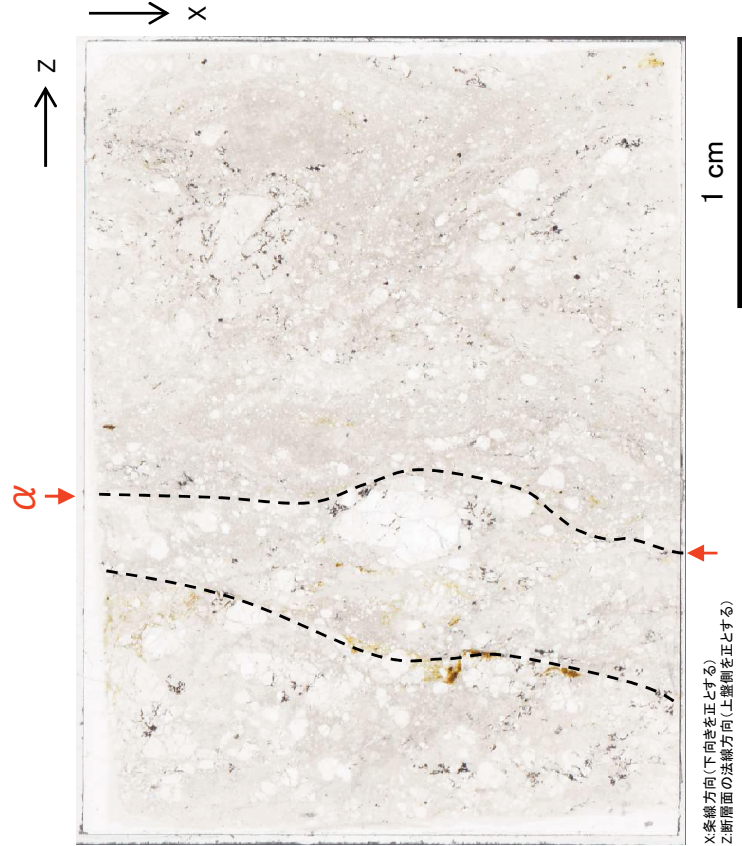


薄片作製位置写真

薄片全景写真(単ニコル)



X: 条線方向(下向きを正とする)
 Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

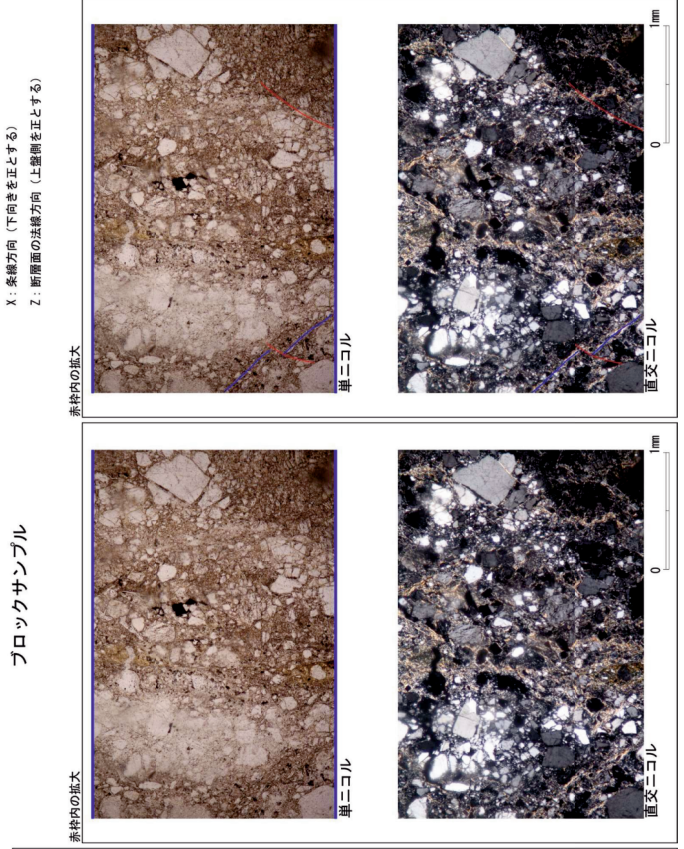
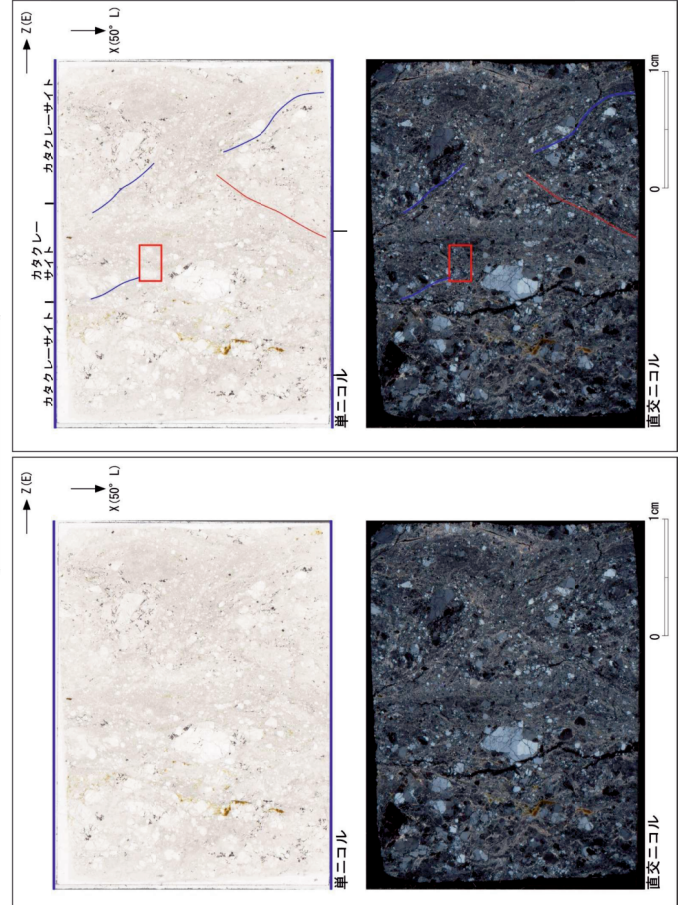
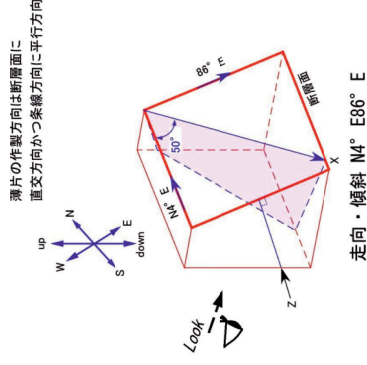
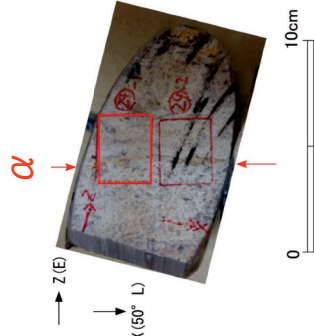
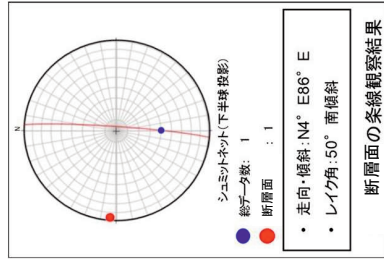


X: 条線方向(下向きを正とする)
 Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位セシスは、右ずれを伴う正断層である。
 ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトののみからなる破砕部であると判断した。

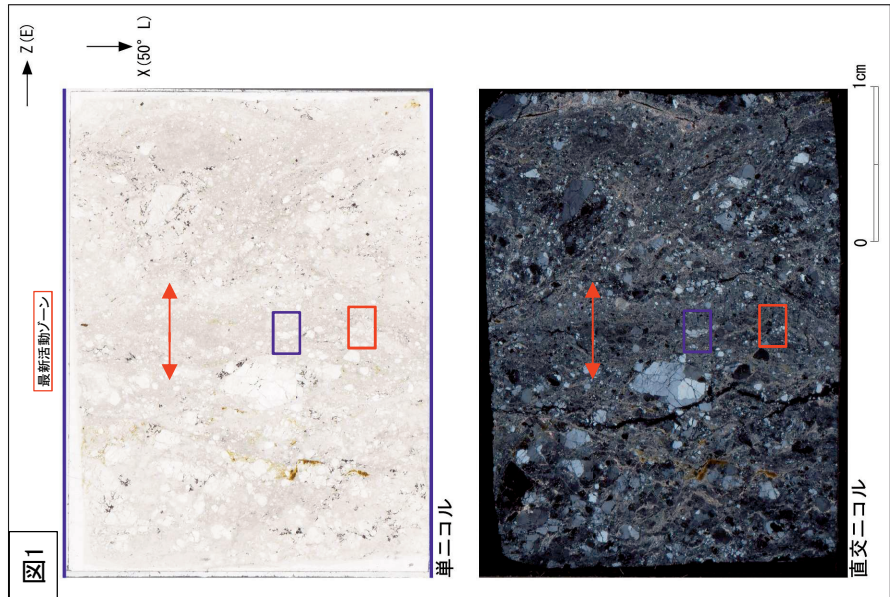
- (カタクレーサイト)基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- (カタクレーサイト)組織は漸移的に変化する。
- (カタクレーサイト)多様な粒径の岩片が多く認められる。
- (カタクレーサイト)角ばった岩片が多い。
- (カタクレーサイト)岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- (カタクレーサイト)ジグソー状の角礫群が認められる。
- (カタクレーサイト)塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。

※断層面 α は最新活動面

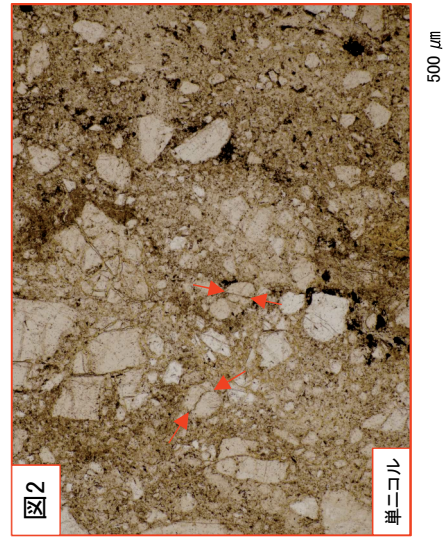


凡例
断層ガウジ
カタクレーサイト
R1面
P面

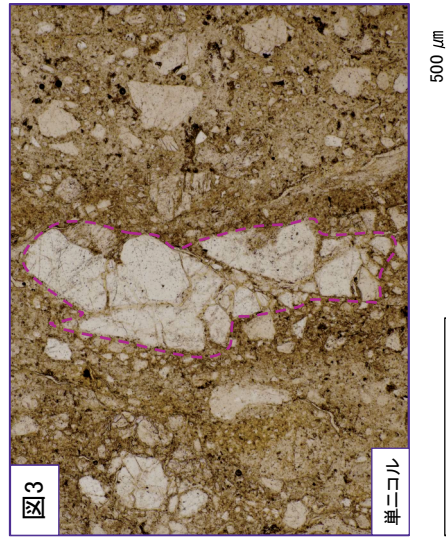
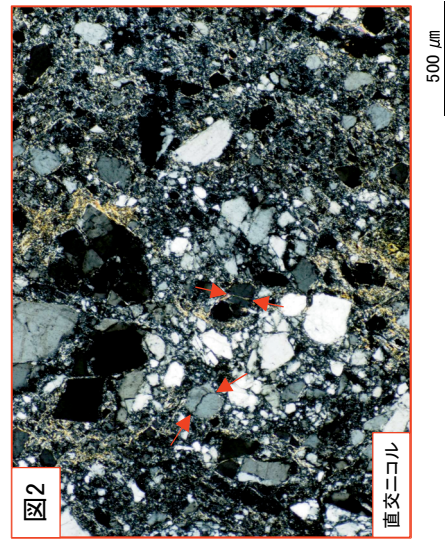
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図2, 3)
- 組織は漸移的に変化する。(図1)
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図2, 3)
- 角ばった岩片が多い。(図2, 3)
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図2)
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図3)



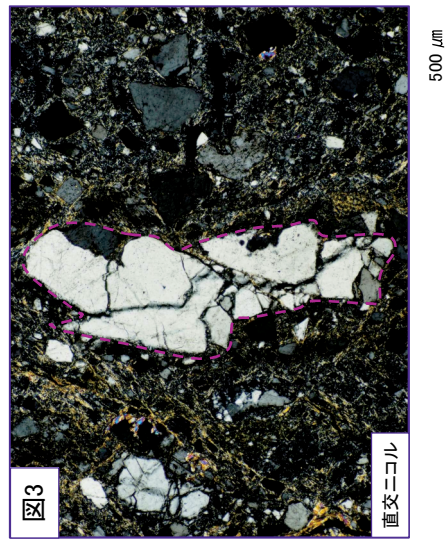
赤矢印の方向に岩片の量が増加する



赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す



破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す



凡例
断層ガウジ
カタクレーサイト